かえり道 さそい道

前住からの法座お誘い状　第7号

●報恩講

くらがりに　女美し親鸞忌

大峯あきら

※「本山の御正忌にきれいな女の人がお参りしていてね。しかしこれは、真剣に求めるものを持っている人の美しさだと感じて、人生に対する深い問いを持ってお参りしていることがお聴聞の姿から伝わってきて、フッと句が浮かんできてね…。」

※浄土真宗の前住職であり毎日俳壇の選者でもある作者が情景を語られます。

●命日の季語

※親鸞聖人の御命日の季語は報恩講、御正忌、御七夜、御講、御仏事、お霜月、親鸞忌、引上会、精進固、精進落などたくさんあります。

（引上会＝浄土真宗の末寺や門徒が本山の御正忌の前に繰り上げて営む報恩講。精進固＝報恩講の始まる前に特にごちそうを食べること。精進落＝報恩講の済んだ日の夕食にわざわざ魚肉を食べること）

※作家の命日は文学忌として季語になります。太宰治の桜桃忌、芥川龍之介の河童忌、正岡子規の糸瓜忌など、先年亡くなった漫画家の水木しげるの命日はもうゲゲゲ忌となりました。

※漱石忌や鷗外忌など単に作家の名を被せた文学忌を数えると暦の半分が埋まります。

※西洋人は生誕を祝す、日本人は命日を尊ぶと言いますが、基督教と仏教の文化の違いです。

※真宗門徒は宗祖の御命日を大切なお聴聞の日として750年あまりの歴史と文化をつくってきました。（…季語の多さの理由です）その歴史と文化を次代につなげてくださいますようどうぞお参りください。

●小さなやかん

※テレビは楽しくもあり、**すぐに**多くの知識をあたえてくれますが、そんなテレビ文化を作家の村上春樹は「やかん」に喩えました。「…小さなやかんはすぐにお湯が沸いて便利ですが、すぐに冷めてしまいます」と。

※**即効性**のある知識しか求めない現代人への警鐘です。

●大きなやかん

※大きなやかんはお湯が沸くまでに時間がかかるけれど、いったん沸いたお湯はなかなか冷めません。…時間が経っても消えずに心に残る知識の方が遥かに大事ではないでしょうか。

※**大きなやかん**、いや**大事なあなた**の参詣を文頭の作者の新年の句を紹介してお待ちいたします。

初空といふ　おおいなるものの下

大峯あきら

※「阿弥陀さまのお慈悲に包まれている安心感が、自然に浮かんできて詠んだ句です。」

（平成30年　御正忌報恩講法要　前住職）